

2026年2月13日

各位

株式会社 ATRA

### 当社による株式会社フジ・メディア・ホールディングス株式の売買方針について

株式会社 ATRA（以下「当社」といいます。）は、後述のレノらの関係会社ですが、本日、株式会社フジ・メディア・ホールディングス（以下「フジ・メディア」といいます。）株式に関する当社の売買方針について、下記のとおりお知らせいたします。

当社は、上場企業の株式の売買は原則として自由であると考えております。上場企業は公開市場を通じて資本を調達している以上、株主を選別することはできません。

近時、一部の経営者がいわゆるアクティビスト株主の存在を疎んじる風潮が見受けられますが、それは果たして健全で建設的な資本市場の姿といえるでしょうか。確かに、アクティビストは経営陣に対して一定の緊張感やプレッシャーをもたらします。しかしながら、政策保有株式や持ち合い株式により「物言わぬ与党株主」に囲まれ、経営が実質的な規律を欠いていた過去と比較すれば、建設的な対話と緊張関係の存在する現在の市場環境の方が、はるかに健全であると当社は考えております。

株式会社エスグラントコーポレーション、株式会社シティインデックスファースト及び野村絢の本日付けプレスリリース「株式会社フジ・メディア・ホールディングスによる訂正臨時報告書に関する当社らの見解」（以下「プレスリリース」といいます。）に記載のとおり、2026年2月3日、フジ・メディアは、①配当方針の変更、②都市開発・観光事業への外部資本導入の検討開始及び③自己株式取得等の諸施策を公表しました（以下「本公表」といいます。）。

株式会社レノ、株式会社エスグラントコーポレーション、株式会社シティインデックスファースト及び野村絢（以下「レノら」といいます。）は、同社代表取締役社長である清水氏より、企業価値・株主価値の向上に向けて資本政策を含む様々な改革を進めるために、メディア・コンテンツ及び都市開発・観光の両事業の持続的な成長と、資本効率の改善を同時に実行していくことが重要であるとの認識を示されたことに賛同し、市場売却等を行う代わりに資本効率の迅速な改善のための自己株式取得への協力を打診されたことから、売付申込に合意しました。

また、2026年2月3日、本公表に先立ち、清水氏より村上世彰氏（以下「村上氏」といいます。）宛に電話があり、「村上さん、これで村上さんはもうフジ・メディア・ホールディングス株式を購入されないのでしょうか。」との発言がありました。これに対し村上氏は、清水社長がフジ・メディアを良い会社にすれば株価は上がっていくはずであり、その場合は購入することはないだろうが、株価が安くなれば購入する可能性もあるという趣旨の回答をしております。

また、同月 12 日、清水氏と村上氏及びレノらとの間で、双方のわだかまりを解き、フジ・メディアの株主価値向上に向けまい進することを確認いたしました。

以上を踏まえ、当社としては、フジ・メディアの株主価値向上に向けた取り組みについて賛同し、応援する意向を有しているものの、今後、フジ・メディアの株価が当社の評価する本源的価値を大きく下回ると判断した場合、当社および当社関係者（応募契約の当事者を除きます。以下同じ。）は、同社株式を買い付ける可能性があります。

また、当社および当社関係者は、フジ・メディアが株主の皆様に対して公表・コミットしている都市開発・観光事業への外部資本導入につきまして、その方針が適切かつ着実に実行されるよう、株主として最後まで責任をもって見届けてまいります。

なお、本書は、当社の現時点における方針を示すものであり、今後において方針の変更がないことや売買の実行を確約するものではありません。

以上